

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470800713
法人名	有限会社 山口商事
事業所名	グリーンペペ
訪問調査日	平成 19 年 5 月 17 日
評価確定日	平成 19 年 6 月 4 日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1470800713		
法人名	有限会社 山口商事		
事業所名	グリーンベペ		
所在地 (電話番号)	〒236-0026 横浜市金沢区柳町 26 - 15 (電話) 045-791-8612		
評価機関名	株式会社 フィールズ		
所在地	〒251-0024 藤沢市鵜沼橋 1-2-4 クゲヌマファースト 3F		
訪問調査日	平成19年5月17日	評価確定日	平成19年6月4日

【情報提供票より】平成19年4月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	10 人	常勤 2 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	4.2

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	約 47,000 円	その他の経費(月額)	約 51,000 円	
敷金	有() 円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ (500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○ / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(4月25日現在)...(調査時点 6名)

利用者人数	5 名	男性	0 名	女性	5 名	
要介護1		名	要介護2	1	名	
要介護3	3	名	要介護4	1	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	80.6 歳	最低	62 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中村整形外科、小笹医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは静かな住宅街にあり、南向きのため日当たり良好で、広い庭にウッドデッキのある民家改修型のホームです。</p> <p>当ホームに入所を希望する際、本人や家族に事業所を見学してもらい、次に体験入所を行っています。本人は職員やサービスの場に徐々に馴染みながら、すでに入所している利用者もお互いに安心し、暖かな人間関係を築きながら本格的な利用に移ることができるように支援しています。</p> <p>また、食事は、毎週一回、数種類のメニューの中からの利用者の嗜好により選んで食事をすることができ、一人ひとりの選択肢の場面づくりにも工夫して和気あいあいと暮らしています。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念の啓発において、地域に対する理解や啓発・広報の面が以前にはやや不足していましたが、地域の自治会にも加入し、夏祭り、盆踊り、近くの公園の清掃等に参加し、積極的に交流と理解を深めています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員は、評価の意義や活かし方を理解し、自己評価を全職員で行うなど、この評価をサービスの質の向上に活かして介護・介助の実践につなげていくための努力をしています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議を開催するための事前準備を進めています。グループホームが、地域の理解と支援を得るための貴重な会議として、事業所の課題や現在取り組んでいる内容、そしてこの評価などをテーマにして、早期に実現することが望めます。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ホーム便り「グリーンベペニュース」は、利用者の写真、健康状態、金銭出納帳の写し等を家族に送付して大変喜ばれています。また、事業所の独自のアンケートを家族等への報告に同封し、意見や要望などを気軽に伝えられるように配慮していますが、今後意見や要望の収集だけでなくその発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みが期待されます。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の自治会に加入し、地域住民の一員として、共に暮らし、支え合い、同業他社とも交流するなど積極的に取り組んでいます。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が日常生活を送る上で、主として人間関係を軸として成り立っていることから、人と人とのつながりを大切にする意味で、「人間関係の深化」を理念の柱としています。そして、これに加えて地域や利用者のニーズの変化にも応え、より住み慣れた地域で安心した「居心地の良い家」をめざしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業者や職員は、日々のサービスの実践の場面において理念を共に意識しながら、利用者への言葉かけや介護・介助にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、自治会の夏祭り、盆踊り、餅つき、近くの公園の清掃等に積極的に参加し、地域との交流を深めている。最近、地域の方から庭のウッドデッキ用に手作りの椅子を作成していただき、椅子に座って、外気を胸一杯に吸い満喫する機会を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者・職員は、前回の評価結果を踏まえて、全員で理念の意義や目的を振り返り、また、職場内研修の重要性を認識している。今回の自己評価も管理者と共に職員が見直し全員がサービスの質の向上に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ実施されていませんが、今後、幅広い立場の人が参加し、話し合いを通じて、メンバーから率直な意見をもらい、サービスの向上に具体的に活かしていくことが大切と思われる。		運営推進会議は、町内会長、民生委員、地域包括センターの方、区役所の担当の方にすでに折衝し、準備を進めていますが、早期に実現して、多くの率直な意見等話し合い、地域の理解と支援を得ることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者や管理者は、認知症サポーター研修や成年後見制度の研修等に参加し直面する課題に取り組んでいる。また、区役所窓口担当者からの要請により、認知症の理解を深めるためのポスターの作成にも協力し理解や支援などの機会をつくり、交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り「グリーンペペニュース」を毎月発行し、家族等に報告している。この便りには、事業所の行事や利用者の写真・健康状態等と金銭出納帳(小遣い帳)の写しも合わせて送り、利用者の暮らしぶりを伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	過去に苦情は特にないが、家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況を知らせたり要望等を聞くように努めている。また、来訪の少ない人のためにも、ホーム便りの中にアンケートを入れ意見や要望を家族から話しやすいように工夫している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職により交代する場合等は、早めに人員を確保するなど、利用者に来るだけ不安を少なくする配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が日々の体験の中から介護・介助を学んだり、仕事をしながら学ぶOJT研修を重視して行っている。非常勤職員等の外部研修は、限られた職員勤務体制と個人の事情により参加することが難しい。		非常勤職員やパート職員も大事な戦力の一員であります。研修計画を作成して、働きながら一步一步レベルの高い技術や知識を一層身につけていくために運営面での工夫が求められます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学や、同業者と研修等で親睦を深め、利用者の介護・介助等のサービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所する際には、まず体験入所し、利用者一人ひとりが安心してサービスを受けられるように、お茶や食事を一緒に摂り、希望があれば、宿泊もしている。そして、本人が安心し、納得し、家族と相談しながら、サービスの場に徐々に馴染めるように工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は毎日の生活の場面の中で利用者とお互いに協働しながら、穏やかな生活が出来るように声かけをして日々を送っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>食事は、業者から食材を購入し、独自の調理をしているが、週に一回は、おにぎり、カレーライスやスパゲティ等、利用者が食べたい物をカラー写真を見せて本人の希望を聞き、好きなメニューで食事をサービスしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、本人やホーム便りに同封して家族の要望や意見を聞き、意見交換し、スタッフ全員で話し合っ作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、本人や家族の要望の変化に応じて臨機応変に行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員は利用者と家族の変化する状況や要望に応じて、事業所が独自に実施しているサービスの一環として、庭の草むしりや草花の手入れや家の周りの清掃を職員とともにし、生活の中に取り入れて必要なサービスを提供し支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、協力医療機関に、3ヶ月に一度通院により定期検診をしている。また、利用者の変化や健康面で心配がある場合は、その都度協力医に相談できる体制に努めている。		協力医療機関の一カ所が、やや遠方のため、事業所はその対応を図っています。区役所の担当部署とも相談し、現在に加えて近隣の医療機関の協力も早期に得られるように検討する事が望まれます。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期における医療処置の対応について、折に触れ家族とよく話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は介護や誘導の声かけの際には、目立たずさりげない言葉かけや介助に心懸けている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に合わせた生活リズムに配慮し、利用者のペースを見守りながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、食材を業者から献立表と一緒に調達して、独自の調理方法や味付けをしている。毎週木曜日の昼食は、おにぎり、カレーライス、オムライスやスパゲティ等の写真を見て、数種類の中から自分の好きなメニューを選び、利用者の気持ちや好みを引き出し、職員と一緒に楽しく食事を摂っている。		食事の準備等は、調理、盛りつけ、お茶だし、配膳、片づけ等の一連の作業の中で、自立支援を図るためにも、少しでも個々の力を活かす場面づくりに更なる工夫が望まれます。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則的には曜日や時間帯は決めているが、希望があれば、利用者の体調に合わせて入浴できる配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は毎日の暮らしの中で、洗濯物たたみ、雑巾を縫ったり等できることは職員が見守りながら一人ひとりにあった役割を見つけて支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は天気の良い日や本人の気分や希望に応じて、庭のウッドデッキテラスなどで空気を一杯吸い、また、近くに散歩に出かけ日常生活の中で楽しみながら機能低下の抑止に努めている。		利用者のその日の状態や希望、習慣等を考慮し、利用者の個々の能力に応じて戸外に出る機会を出来るだけ多くつくり、外出を楽しめる支援を更に期待されます。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を確保しながら、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、年に2回地域の防災訓練に参加し、町内会と連携を図りながら、協力体制の整備に取り組んでいる。 また、緊急時の連絡網は事務室に掲示し、非常用食料として缶詰類も備蓄して、災害に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は専門栄養士が栄養のバランスを配慮した献立メニューで摂っているが、利用者の一人ひとりの残食量や水分の摂取状況も毎日チェック表につけ、職員が共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームは民家改修型で、自宅で暮らす延長と同じ雰囲気、思い思いの場所で過ごしている。門から玄関へは親しみやすいアプローチとなっていて、庭には季節の草花が植えられ、居間には日めくりのカレンダー等で家庭的な環境づくりとなっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れた馴染みの整理ダンス、整理箱が持ち込まれ、家族の写真や花などが飾られていて、その人に合わせ安心して過ごせる場所になっている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を实践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グリーンペペ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市
記入者名 (管理者)	宮島 優子
記入日	平成19 年4月25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間関係の深化」という理念がある		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「人間関係の深化」とともに「居心地のいい家」とサブタイトルのな物を作った		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に理念、サブ理念を掲示している		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧板を利用者と一緒にまわしたり、ゴミ置き場の掃除をしたり、お散歩時すれちがう方に挨拶をしている。また、ご近所から頂き物をしたりすること等もある		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の夏祭り、盆踊り、餅つき、公園掃除等に参加している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	金沢区認知症サポーターに登録している		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を活かしサブ理念を考えたり所内研修を行う等している		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはまだ取り組んでいない		自治会長さんは面識がありよく顔もあわせるので運営推進会議の際は参加していただく予定である。また同じ町内の事業所と共同で運営推進会議の開催を予定している
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症サポーター研修や成年後見制度で高齢者担当、保護担当の方と行き来はある		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加。現在1人成年後見をつける話を区役所高齢福祉担当と進めている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待のパンフレットを常に意識できる掲示板に貼っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項等の読み上げ、それについての質問を受け付け書名捺印をいただいている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付担当者 苦情解決担当者を設けている。来所されたご家族とはじっくり話す時間をとっている。また周知のため玄関にポスターを掲示してある</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ペベニュースというホーム便りと、個別に健康状態 金銭管理(小遣い)等報告の手紙を送付している</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付担当者 苦情解決担当者を設けている。上記の手紙の中でアンケートを入れ家族が言い表しやすいようにしている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>申し送りノートやメモ・個人的なEメールを使い職員からの意見を聞くようにしている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>面会、通院等がスムーズに行えるよう話し合いをしスタッフの調整をしている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に異動はなく、退職者があるときは早めの人員確保に努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を実施している。新しい職員の居るときはしばらくの間同じ時間帯の人員を増やすことをしてトレーニングしている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ町内に新しい事業所が開設された際は挨拶に出向いている。また認知症サポーター、研修等で同業者との親睦を深めている。他区だがグループホーム見学へも行っている		今後はスタッフにも他グループホーム等見学・研修に行ってもらおう
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	申し送りノートやメモ・個人的なEメール等を使い職員からの意見を聞くようにしている 例えば、リハパン・パットの保管場所を変え職員の動きを最小限に抑えるようにしている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員への声掛けやメモ等で向上心を保てるようにしている		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談ではファイルを作り記入をしている。また他事業所のCM、CWより相談があった場合も同様。在宅されている方には担当のヘルパーさんやご家族と一緒に話を聞くようにしている。1回は自宅へ訪問し本人の話を聞くことにしている。それを元にアセスメントシートを作成している		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	1回は自宅へ訪問し家族の話を聞くことにしている。それを元にアセスメントシートを作成している。また担当のCM、CW、ヘルパーさんからも情報収集を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	連絡を密に行いながらアドバイスをしている。当ホームで対応が困難な場合空き状況の確認をしたうえで他グループホームを紹介している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所、お茶・食事体験等をしてゆっくりと馴染めるようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に家事や散歩を行うことで対話し信頼関係を築くようにしている。特に入浴は1対1でゆったりと時間のとれる時なので大事にしている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来所された時近況報告をし今何が本人に必要なかを一緒に考えている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常から家族の名前を伝え安心して暮らせるようにしている。催し物がある時はご家族にも声をかけ来所していただければご家族には来所していただいで一緒に楽しんでいる		家族会の声かけをしていきたい
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人や場所のことを話の中に加えて安心して暮らせるようにしている。面会が可能な方には来所していただいている。また年賀状・転居のお知らせ等はなるべく本人に書いてもらい出すようにしている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングでの席順に気を配り円満な雰囲気が作れるようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了者は死亡者以外はまだいない		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食材はデリバリーを使用しているが週に1回写真を使って食べたい物を聞きメニューに採用している。衣類等の買い物も本人の意向を尊重している		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やCM、CW、ヘルパーさんから情報収集をし個人ファイルに記録している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの状態を把握し対応をするため散歩・塗り絵等マンツーマンを基本としている。一日の過ごし方を細かくみるため個人介護記録の形式を変えた		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のペペニュースと一緒に手紙を同封し意見交換を行いながら介護計画を作成している		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの介護計画の見直しを行い現状に即した新たな計画を作成している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日常介護記録や業務日誌、申し送りノートを使っている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	民家改修型を活かし庭の草むしり・草花の手入れ・家屋周りの掃き掃除・整備等を利用者と一緒にしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	時々ボランティアさんに来てもらい一緒に散歩・調理等援助してもらっている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	以前はスポーツ好きな利用者さんはスタッフと一緒にスポーツジムに通っていた		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターに挨拶はしてあるが協働はしていない。生年後見制度の活用は進めている		今回の評価が市を通して包括センターで閲覧できるようになるので連絡を取り合っていきたい
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関へ3ヶ月に1回定期健診に通院している。ご家族の希望で他医療機関へ通院の希望があれば随時状態に合わせて行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関へ3ヶ月に1回定期健診に行っている。また電話相談や通院も随時状態に合わせて行っている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護師には気軽に相談できる状態にある地域の看護職とは今後		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療協力機関とは連携しているがその病院に入院した方はまだいない。他病院へ入院された時にはCW等とこまめに連絡をとり対応した		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年9月に3年を向かえた際各家族と個別に話し合い希望のあった家族には特養の申し込みをしていただいた。申し込みをしてもらっていない家族にも方針は話し理解いただいている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力医療機関が遠いので近隣の病院への対応を検討している		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	体験入所、お茶・食事体験等をしてゆっくりと馴染めるようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録に不適切な表現が使用されていた場合、書き直しを指示する等意識を高くもつようしている	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	食材はデリバリーを使用しているが週に1回写真を使って食べたい物を聞きメニューに採用している。衣類等の買い物も本人の意向を尊重し支援している	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間は決まっているが他の時間は各人のペースを大切にしよう支援している	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の入居者に合わせアクセサリーや化粧品、マニキュア等を揃えて対応している。理美容は本人や家族の希望に合わせて行っている	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材はデリバリーの物を使っているが毎週木曜日のお昼はレクレーションを兼ねて写真を使って選べるようにし何を食べたいのかを聞き準備・調理・片付けをしている	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	声掛けをしてお煎餅などを欲しいかどうかうかがっている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リネン表を使い時間を見計らってトイレ誘導や見守りをしている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は決まっているが強い入浴拒否のある場合はムリをせず本人の意向に沿うようにしている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の意思を尊重し昼寝をしてもらったりリビングと居室を使い分けできるように援助している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や洗濯・縫い物・掃除等できることをやっていただきそれが役割だと感じてもらえるよう援助している。また皆で行うレクリエーションの中で個々の能力に応じてマンツーマンで援助している		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族了解のもとお財布(現金)を持っている方もいる。また買物時の支払いの際は本人が支払いをできるように援助している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、可能な方は散歩時にボール投げ等を日課としている		
62	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別、家族との外出はできるかぎり援助している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じ電話や手紙を書く援助をしている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	年賀状や季節ごとの手紙をご家族や馴染みの方にお送りし来所を促している。また長年使ってこられたタンス・鏡台等を持ち込んでいただき今までの生活歴を活かしたお部屋の雰囲気を作っている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	横浜市のパンフレットや研修資料を使い身体拘束を理解しケアに取り組んでいる		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜の戸締り以外は玄関の鍵を掛けることはせず鍵をかけないケアに取り組んでいる		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	小さな施設なので目が届きやすい。夜間については3時間おきに巡回し安否確認をしている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	今までの生活歴を活かしながら化粧品、造花、裁縫箱等配置に注意し見守っている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行の不安定な方の立ち歩き、全員の内服は必ず職員の見守りのうえ行っている。またリビングには必ず1人はスタッフが居るようにし事故防止に取り組んでいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを用意している。また避難訓練を兼ねた散歩・ピクニックを行っている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災訓練に参加し毛布で担架を作る方法等を教えていただいた。その際参加できる利用者には一緒に参加してもらった。またお隣の方・町内会長さんなどと常にコミュニケーションをはかっている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族が来所された際には色々なことを話し合っている、毎月のペペニュースと一緒に手紙を同封したり ケアプランの中に盛り込みご家族と対応策を話し合っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	重度化にならないよう早期発見を心掛け申し送りを徹底している		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「ペペのお薬辞典」を作成しスタッフ全員が把握できるようにしている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品や繊維質の摂取を心がけているが便秘のひどい方には医師から薬を処方してもらっている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員が見守りながらマンツーマンで歯を磨いている。また定期的に歯科検診を行っている。必要な方には歯科往診も行っている。スタッフには歯科衛生士の資格を持った者を採用している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは専門の方が作成したメニューを使用している。必ずスタッフが一緒に食事を摂っているので量や水分量は把握しており記録している。嚥下の悪い方・自力摂取の難しい方等個々に対応している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは毎年予防接種を行っている。他感染症に対してはマニュアルを作りスタッフに周知してもらっている。またキッチン・トイレ前等にアルコールを用意し使用している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板の使い分けやハイターを使い衛生管理をしている。食材は宅配業者に委託し毎食新しい物を使用している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門には手作りのトルペイントの表札をかけている。ウッドデッキにはお隣の方に作っていただいたイスを置いている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型のホームなので自宅にいる雰囲気は十分にあると思う。また玄関やリビング、キッチンには観賞できるペット・花等を置きトイレには日めくりをかけ生活感や季節感を味わえるように援助している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席 ソファを使っている。また希望のある方には外のウッドデッキに出ることも援助している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたタンスや仏壇・鏡台等を置いている。布団やベットも同様。また本人・家族と相談し居室の様様替えをしている方もいる		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングの扉を外しているので空気の流れや外気温との差は少ない。清掃時・起床時等換気をしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手摺りを設置している。居室内も今までなかった所に手摺りを設置した。また家族と協力しベット脇等にクッションとなる物を取り付けたりしている		階段昇降機、門から玄関までの手摺りも設置したい
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	塗り絵、食事の支度、掃除、縫い物、新聞紙たたみ等各人に合わせた役割を持ってもらうようにしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキを設置し、イス、テーブルを利用している。散歩に出歩けない方はそこで日光浴や花を愛でたりしている。また外周りを散歩したり掃き掃除をスタッフと一緒にしている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者と近く、民家改修型の施設なのでアットホームである。一人一人の生活暦や幼少期の思い出を引き出せるように、また、会話のはしばしに過去の楽しかったことを思い出してもらえるように支援していきたい